

北海道手をつなぐ育成会 げっぼう

『啓発キャラバン隊』づくり全国研修会

共生社会の実現に向け 障がい者理解を全国に広めよう

3月12日、全国手をつなぐ育成会連合会が主催する標記の研修会が開催されました。参加者は全国のキャラバン隊15チーム。講師陣も含めると、総勢103名。道内からは札幌と遠軽からの2チーム、6名が参加しました。



「学校における障がい理解の啓発」と題し、関哉弁護士が基調講演を。さらに又村あおい氏からは「障害者差別解消法と啓発隊の役割」についてお話しがありました。その後、情報交流と続き、大変充実した研修会となりました。

*開催趣旨から引用

2016年、津久井やまゆり園事件

では、多くの人の心の奥底に、障がい者は、自分達とは違う存在だという気

啓発隊との出会いは、北見市手をつなぐ育成会の研修会です。初めて『Team i』の講演を見た時「これは絶対、遠軽に持ち帰ろう」と心に決めました。戻ってきたとき、記憶をたよりに、見よう見まねで疑似体験の小規模学習会を行いました。

次はもつと多くの人に知ってほしいと思い、オホーツク育成会の力を借りて『Team i』を遠軽町に呼ぶことができました。これをきっかけとして、『Team かたつむり』が誕生したのです。

いざ東京へ。3月11日、新千歳空港から羽田に向かい、遅い時間にもかかわらず、東京駅では『Team i』の生みの親『びーす&ピース(兵庫県)』の方々に笑顔で出迎えていただきました。『Team i』から「私たちの子どもです」と紹介され「孫が出来た!」と喜ばれました。不安でいっぱいの中、とても嬉しく感じました。

私の子どもは脳性麻痺という障がい、車いすを利用しているため、外見で障がいがあるとわかります。他にも眼の不自由な人、耳の聴こえが悪い人への理解は少しずつですが広がってきているように思います

持ちがあることを再認識させられました。私たちは、この事件を風化させることなく、もう一度、前に向かって進もうと思えます。そこで、今後、さらに知的障がい、発達障がい理解を社会に働きかけていくため「啓発キャラバン隊」活動を全国の育成会に広げようと考えています。

す。しかし、外見ではわかりづらい発達に偏りのある人達の理解は簡単ではありません。外の世界がどんなふうに見える、聞こえるのか、そのことによってもどんな大変さがあるのか、この活動は、そのことを多くの人達に伝えることができます。

研修会では「大変なのは自分の子どもだけでなく、病気の人、介護を必要とする人、赤ちゃんを育てている人、子どもの成長で悩む人、どの人も、何らかの大きさを抱えているかもしれない。自分達一人一人の優しさを惜しみなく表現し、伝えていこう」と話す方がいて、その言葉にとっても共感しました。

《みんなちがってみんないい》そんなあたりまえの社会をめざし、小さな種を蒔くことから始めます。私たち『Team かたつむり』は心のバリアフリーを広げる活動を幼児から高齢者まで、全国の『人のつながり』を求め、「全国育成会啓発キャラバン隊」の一員として、北海道から発信していきたいと思えます

遠軽町手をつなぐ育成会かたつむりの会

会長 山田 由紀

【第4回理事会 報告】

新年度事業計画の骨格を確認

～活性化に向け、全会員の英知を結集～

3月27日、理事25名中、21名、監事3名全員の出席をいただき、平成30年度における決算見込の報告や次年度における事業計画の基本的な枠組みについて、熱心な議論をいただきました。先ず始めに、昨年度に続き、大変厳しい組織状況のもと、胆振東部地震という大きな災害にも見舞われましたが、各地区会員の工夫と努力のもと、ほぼ、年度初めに計画した通りの事業が実施され、収支決算の見込みについては、計画的に進んでいることが報告されました。

具体的な事業の内容については、4月22日に予定される新年度、第1回理事会において、総会議案書という形で承認を受けることとなります。



今号では、本年度事業を推進していく上で、理事会で確認された「6項目の重点」について、以下に紹介をさせていただきます。



1. ブロック活動の強化

・札幌市を含む、道内12ブロックの体制の整備と強化、情報交流と連携を進めます。ブロック事務局長会議を増やします。

2. 活性化対策の推進

・活性化対策委員会において、今後の戦略、戦術を練り、その都度、必要な取り組みを提起します。また、ブロック割りや、役員選出規定等について、現在の育成会組織の実態に合わせた見直しを図ります。



3. 障がい理解と合理的配慮の普及啓発推進

・啓発キャラバン隊活動を支援、推進し、新たに、道内チームによる交流、研修会を実施します。（現在、準備中を含め道内4チーム）

4. 本人活動への支援強化

・「本人活動支援委員会（仮称）」を設置し、本人活動の実態把握や、望ましい支援のあり方、特に意思決定支援を学び、権利擁護活動を推進します。

5. 広報・情報・芸術・スポーツ活動の推進

・げっぼう、ホームページ等を充実し、情報発信に努めること。また、本人達が参加、表現できる場や、機会を積極的に押し進めます。

6. 他機関、他団体との連携、一層の強化

・特別支援教育関係機関や、教職員関係団体も視野に入れ、連携に努力します。

今後の全道大会の開催について

名寄大会の準備状況や、大会日程等の概要報告がなされ、引き続き、全道的な支援、協力を確認しました。また、以後の開催地として、現在、オホーツクブロック（会場は北見市）で検討が進められていることも報告されました。そこで、今後の大会の開催、運営について、以下のような確認を行いました。

- ① 財政支援、運営支援については、決して開催地任せにせず、常に全道規模で支援する。
- ② 結果として赤字になった場合、道育成会が責任を負う。黒字の場合は開催地で大会終了後の育成会活動に活かしてもらう。
- ③ 大会日程、内容、運営等については、道育成会と連携を図りながら、開催地の社会資源、組織状況等を考慮し、現地における判断を尊重、柔軟に考える。

辞令をお渡ししました

道保健福祉部から本会に「北海道障害児通所給付費等不服審査委員」の推薦依頼がありました。三役での協議、ご本人の内諾、所属育成会の了解を経て、理事で旭川育成会（副会長）に所属する「青山弥生さん」に決定。道知事に代わり会長より、辞令をお渡ししました。任期は3年です。



もっふもっふスポーツを！

文科省プラン

地域拠点づくりも

文科省は、障がいのある人が、その個性や持てる能力を我が国の未来を切り開くために十分に生かせるよう、各分野における政策プランの作成を進めています。特に昨年、障害者雇用の不適切な計上が発覚し、深い反省の上、次のような5つの重点政策を掲げました。

- ① 障がいのある人と共に働く環境づくり
- ② 発達障がい等のある子ども達の学び支援
- ③ 障がいのある人の生涯にわたる多様な学び支援
- ④ 障がいのある人の文化芸術活動の支援
- ⑤ 障がいのある人のスポーツ活動の支援

そして、3月28日「障がい者のスポーツ活動推進プラン」が発表されました。内容はパラリンピックなどのトップ選手の世界づくりだけではなく、教員養成課程において、障がい者スポーツの指導者育成カリキュラムの導入や、ユニバーサルスポーツ用具の整備推進、特別支援学校を拠点とした障害者のスポーツクラブの設立等、障がい者が身近に親しめるスポーツ環境の整備が強調されており、評価できます。障がい児者にとって、日常的に参加可能なスポーツ環境は成長や発達への支援となると同時に余暇の選択肢の広がり、生涯学習、健康、仲間づくりにつながる共生社会実現への一歩と言えるものです。

すでに道内各地の「育成会」で活用中

今年度もふるってご応募を！

「障がい者スポーツ教室」

実施団体募集中

北海道障がい者スポーツ協会では、障がい者スポーツ教室の実施団体を募集しています。障がい者スポーツ教室は、同協会が教室開催に係る経費を負担し、地域で活動されている障がい者団体が実施主体となって開催されます。

障がいのある方々が、身近な地域で安心してスポーツに親しむ機会が得られるよう、毎年、各地域で開催されており、障がいの種別を問わず参加できます。

からだを動かすことの楽しさを気軽に体験できる教室には、初めてスポーツに触れる方も多数参加しています。

この教室は、実施団体が自主的に計画立案し、日程の調整、競技種目の選定、会場の確保、講師の手配、参加者の募集などの一連の準備を行い、教室当日の運営も担います。

昨年度は、ボウリング、バドミントン、ポッチャ、水泳、パークゴルフ、なわとびなどの教室が各地で開催されました。

助成額の上限は原則5万円です。教室開催の申請書類は毎年、育成会、助成事業の書類と一緒にお届けしてい



ますが、同協会のホームページからもダウンロードできます。詳細については、同協会までお問い合わせください。

○公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
URL <http://www.do-syospo.or.jp/>

☎ 011-261-6970
FAX 011-261-6201

E-mail tanto-3@do-syospo.or.jp

*「北海道新聞」「苫小牧民報」等の報道によれば、「道教委は、3月1日に開催された道議会予算特別委員会で、現在は特別支援学校がない苫小牧市に新たに特別支援学校の設置を検討するとの考えを示した」とありました。本会の長年の要望、地道な活動が形を成しつつあります。改めて声を束ねることの大切さを感じます。苫小牧市をはじめ、胆振地区の皆さん、本当に良かったですね。そしてもうひと踏ん張り。共に頑張りましょう。

*第4回理事会では「平成30年胆振東部地震義援金配（全国育成会）について」が提案、了承されました。詳しい内容については、次号でお知らせします。

*「アート作品募集」「名寄大会開催要綱（参加申し込み、宿泊を含む）」のご案内を、道育成会のホームページにアップしています。ご利用ください。

今後の予定

5月27日(月) 道育成会定時総会・第2回理事会

道サポ定期総会

6月1日(土) 道育成会通所事業所連絡協議会
定期総会・研修会

知的障がい・発達障がい
ダウン症・てんかんの
ある方のための保険

ぜんちの
あんしん保険
東京海上日動の
個人賠償責任補償付
少額短期健康総合保険（無告知型）2016年創設

ぜんちの
こども傷害保険
東京海上日動の
個人賠償責任補償付
権利保護補償付傷害保険（2016年創設）

特別支援教育を
必要とされている方
のための保険

病気やケガでの
入院



最高日額1万円

虐待・差別・逮捕に
対応



弁護士費用補償

誤って物を壊してしまう…



個人賠償
責任補償
最高5億円

※（総合生活保険（個人賠償責任補償））
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

日常生活でケガを
することが多い…



入院・通院を日額保障

トラブルに巻き込まれた際、
誰も助けてくれない…



弁護士がサポート

当事者同士での
解決が難しい…



示談交渉サービス付き

ネット申込・年払・月払OK | クレジットカード払OK ※ネット申込みのみ

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。 詳しい資料のご請求・お問合せは下記までお気軽にどうぞ

<代理店>

有限会社オフィスブレイン

〒060-0032

札幌市中央区北二条東3丁目2番

札幌セントラルビル3F

TEL:011-207-2522 FAX:011-207-2523

ぜんち共済株式会社

ZENCHI 関東財務局長（少額短期保険）第14号
〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号岩本町シティプラザビル5F

コールセンター ☎ 0120-322-150

ぜんち共済 検索 http://www.z-kyosai.com/

[2017年12月作成 17-T08668]



AIG損保生活サポート総合補償制度のご案内

安心を
お届けします

2007年4月に日本で誕生した知的障害児者と自閉症児者専用の保険です。

AIG損保の普通傷害保険（2018年1月現在の内容です。）
（知的障害者等福祉団体傷害保険特約セット）

病気やケガまたはその検査のため入院したとき

入院給付金（付添介護保険金、差額ベッド費用、入院諸費用、入院一時金）

他人にケガをさせたり、他人のものを壊して法律上の賠償責任を負ったとき

個人賠償責任保険金：1億円または3億円（1事故あたり支払い限度額）

ケガをしたとき

死亡・後遺障害・入院・通院・手術保険金

地震・噴火・津波危険補償特約セット

病気で死亡したとき

葬祭費用保険金

取扱代理店）株式会社ジェイアイシー北海道支店
〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目
8-2 SRビル4F <http://www.jicgroup.co.jp>
TEL：011-221-7009 FAX：011-221-1704
受付時間：午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）

引受保険会社）AIG損保保険株式会社札幌営業支店
〒060-0003 札幌市中央区北3条西4丁目
1-1 日本生命札幌ビル17階
TEL：011-204-7510 <http://www.aig.co.jp/sonpo>
受付時間：午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）

北海道知的障害児者生活サポート協会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
かでの2・7 4階 北海道手をつなぐ育成会内
TEL：011-251-0855 FAX：011-251-0804
（A-000811 2019-12）

このご案内は保険の概要をご説明したものです。詳細は取扱代理店にお問い合わせいただくか、専用のパンフレットをご参照ください。

『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の
目的です。

私たちは、『経営』と『志』の統一を目指しています。

体力のある事業所も体力のない事業所も助け合います。

あなたの事業所の入会を待っています。

北海道手をつなぐ育成会
通所事業所連絡協議会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7（4F）

電話（011）251-0855 / FAX（011）251-0804

E-mail：doikusei@air.ocn.ne.jp

★会員事業所紹介★

社会福祉法人 朔風 札幌社会復帰センター

〒065-0019 札幌市東区北19条東6丁目1-1

電話（011）721-2888 / FAX（011）753-0497

E-mail：fukkicenter@rhythm.ocn.ne.jp

★就労継続支援 B型事業所

☆定員…60名

★主な作業

☆クリーニング

☆各種下請け

☆箱折り ☆DM封入

☆しめ飾り / 木工製作・販売

☆清掃等施設外就労

☆藍染 その他



↑ 藍染製品